

アフターコロナ時代を見据えた経済社会構想検討会議

未来戦略プロジェクトチーム 観光・地域づくり・暮らし部会 中間報告

令和2年12月21日

提案の2つの柱

- 1 新たなスタイルによる観光振興
- 2 訪れてみたい、住み続けてみたいと思える地域づくり

1 新たなスタイルによる観光振興

目指すべき将来像

- 上質で多様な観光コンテンツが用意され、「富山ファン」、リピーターが増えている
- 環境やコンテンツが整備され、ワーケーションが促進されている

課題等

- 「人をいかに集めるか」という価値観が変容し、人が来ないと、集まらないと成り立たないという社会・ビジネスモデルからの脱却
- 新規顧客の獲得だけでなく、リピーター、ファンをいかに大事にするか、リテンションへの注力が必要
- 本県が観光地として選ばれるためには、日本における本県の意味づけ（シンボル）の明確化が必要
- 「少人数化」「多様化」が求められ、「上質な旅」、観光コンテンツの「質」が求められている

提案①

新たな観光振興

短期

中期

- 観光分野においてもDXを推進していく必要がある
- 当分の間、感染症対策にも留意していく必要がある

例えば・・・

- ・ 観光に関する情報を一元的に管理し、AIによる分析など官民が観光施策に活用できるデータベースの構築
- ・ デジタルを活用し、利便性や三密回避のための予約システムの構築
- ・ 分散型観光の開発（隠れ家的な「ソーシャルディスタンス観光」やデジタルを活用した「人がいない静かな観光地」としてブランド化するなど）

提案②

ワーケーションの推進

短期

中・長期

- ワーケーション人口の増加を見据えたインフラ整備
- 本県ならではの付加価値（コンテンツ）を用意

例えば・・・

- 立山に高級ホテルを誘致したり、既存施設を改修するなど希少価値の高い自然環境の中でのワーケーション環境を整備
- 本県ならではの農業、植林、漁業を体験できる企画など、ワーケーション用の観光コンテンツの開発

2 訪れてみたい、住み続けてみたいと思える地域づくり

目指すべき将来像

- 軽井沢のようにシンボルがあり、都会的で小洒落た雰囲気のある地域
- デジタルが特別なものではなく、人々の生活に溶け込んでいる地域
- 魅力的な人の周りには人が集まる、人を呼び込む人が集まり、さらに人が集まる地域

課題等

- 県全体のDXを推進するため、県庁のDX化を真っ先に実施
- 本県が選ばれるには、シンボル（尖がり）や魅力的な教育環境が必要
- 誰もが迅速に医療・福祉を受けられる体制や、どこでも芸術・文化を楽しめる環境が必要
- 柔軟な発想や多様性、コミュニケーション能力を身に付けるには、本物（芸術・文化）に触れる必要
- デジタル弱者を生まないなど、県民誰一人として取り残さない社会

提案①

県庁にDX専門部署をつくる

短期

- まずは県庁のDXを真っ先に進める
- そうすることで、医療、福祉、教育など行政が関わる分野にもデジタルが溶け込んでいく

例えば・・・

- デジタル・IT分野の第一人者（楽天のIT部長クラスの人など）を思い切って県庁に招へいし、ある程度の権限を与える（権限がないとそういう人は来ない）
- DXの進展具合を毎月公表（どれだけ紙の使用量が減ったかなど）

提案②

富山県のシンボルをつくる

短期

中期

- 企業（特にGAFAなど）にオフィススペースを設置してみたいと思わせるような魅力的な（シンボリックな）場所を用意（補助金を出すのではなく、そこで仕事をしてみたいと思わせる場所を用意してアピールするほうが琴線に触れるのではないか）

例えば・・・

- 環水公園内にオフィススペースを設置し、一定期間無償で使えるようにする
- 元近代美術館をリニューアルし都会的・文化的なコンテンツを用意（何万冊の蔵書や酒蔵が備えられているなど）

- 身近で分かりやすい地域資源を今一度再認識し、磨き上げ、シンボル（尖がり）として地域の魅力をPR

例えば・・・

- 富山湾のビーチ5か所を「日本のビーチ100選」にランクインさせる（素材はもともと素晴らしい）
- 歴史や物語のある高岡、美しい風景や素晴らしい魚のある氷見などもっと磨きあげられないか

提案③

休日の分散化の検討

短期

- 休日の分散化は感染症対策にも観光需要にもつながる
- 以前から検討されてきたが、課題が多く議論は進んでこなかったが、コロナを契機として再び注目
- 制度変更が難しいのであれば、ソフトで誘導できないか

例えば・・・

- 特区制度を活用して、県単位や地域単位で実施
- 「休日」の制度変更が難しければ、ITを活用したダイナミックプライシングの積極的な導入や平日限定イベントの開催、Go Toキャンペーンで平日の割引率を高くするなどソフトで誘導

提案④

短期

医療や芸術・文化のデジタル化

中期

- 医療・福祉分野もデジタル化を進めていく必要があるが、高齢者の利用を促すには、決済方法が大きな課題
- 芸術・文化もデジタルを活用することで、どこでも臨場感のある公演を楽しむことが可能に

例えば・・・

- 現実的にオンライン診療で一番適しているのは、病院と高齢者施設をつなぐもの
- 誰もがオンライン診療を受けられる環境を整備（コンビニに電話ボックス型のオンライン医療設備を設置するなど）
- 5G、AR・VRなどの未来技術を活用したデジタル公演

提案⑤

デジタルも必要だが、リアルも大切

短期

- 質の高い芸術・文化は本物を生で見てもらうのが一番
- コロナ禍では不安が先行している（特に学校など温度差が大きい）ので、きちんと対策をして、マナーを守れば大丈夫なことが多い、その辺をしっかりとPR

例えば・・・

- ・ オンラインやデジタルは芸術、文化に触れるきっかけにはなるので、それをリアルにつなげていく仕掛け
- ・ PCR検査済みの本県アーティストを積極的に活用（芸術文化の地産地消）していく

提案⑥

デジタル弱者の支援

短期

中期

- 高齢者などのデジタル弱者に対するIT教育の支援
- 全世代が平易に操作できるITツールを開発
- 県民が必要とする情報（医療、子育て、災害情報など）をワンストップで入手できるアプリを開発

例えば・・・

- ・ 生涯学習の既存の講座のブラッシュアップや富山インターネット市民塾との連携
- ・ 地域のラボとの連携（地域の実情に沿った取組み）
- ・ 官民連携（サンドボックスなど）の取組み

提案⑦

教育県としてブランディング

中・長期

- 子どもの教育は移住・定住のアンカーになる
- 本県ならではの魅力的な教育環境を整備し、本県を選んでもらう

例えば・・・

- ・ 高校生や大学生を対象とした起業家育成プログラム（若年層向け起業未来塾）の開催
- ・ ワークーションで本県を訪れた最先端のIT人材等と子どもたちが触れ合える機会の創出（教育ワークショップ）
- ・ シビックプライドを醸成するためのフィールドワーク

その他の主なご意見

○魅力的な地域づくりについてのご意見

- ・地域課題の解決を目指す地域の「ラボ」創設への支援
- ・お洒落な健康増進施設の整備や公共交通を充実させるなど知識層や富裕層をターゲットにしたモデル的なまちづくり
- ・廃館した旅館等を借り上げ、地域づくりを任せてみるなど人づくりにつながるトライアル事業の実施
- ・デンマークのような余暇・趣味を楽しんでいる「かっこいい人」がたくさんいる地域（趣味大国富山）を目指す

○ICT教育についてのご意見

- ・教員に負担をかけるのではなく、ITの専門家を教育現場に投入し、教員のITマインドをアップさせる必要がある
- ・規制ばかりでは何も進まない。やれるところから柔軟に進めていく